

令和２年度 滋賀県廃棄物処理計画に係る県民アンケート調査結果（速報）

1. 調査目的

- 県民のごみ減量に対する意識や実践行動の状況等を把握することで、第五次滋賀県廃棄物処理計画の策定や各種施策の検討に当たっての基礎資料とする。

2. 調査対象

- 県民の満18歳以上の男女2,000人
※県内地域7ブロックごとの人口比を基に、調査協力した事業者に登録されているモニターから抽出。

3. 調査時期、調査方法

- 令和２年８月にインターネット調査で実施

4. 調査項目

- 問（１）循環型社会を進めていくことについて
- 問（２）～（３）ごみの減量について
- 問（４）レジ袋全面有料化について
- 問（５）～（６）プラスチックについて
- 問（７）～（９）食品ロスについて
- 問（１０）新型コロナウイルスの影響によるごみに関する意識・行動の変化について

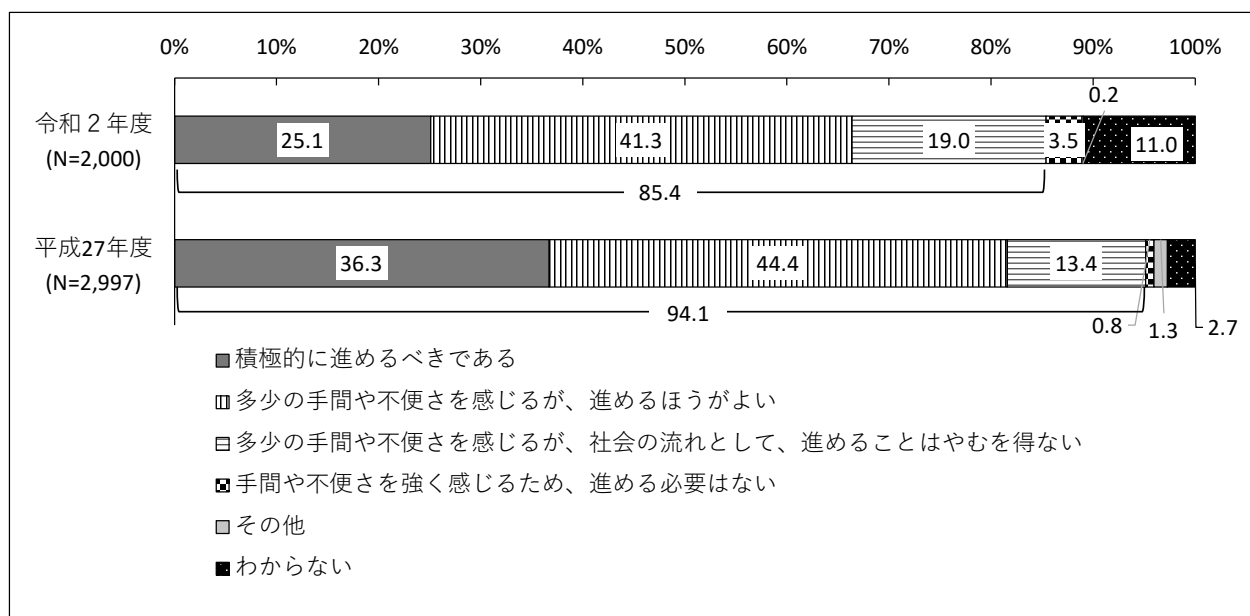
5. 調査結果の概略・考察

- 循環型社会づくりを進めることについての考え（問（１））では、「多少の手間や不便さを感じるが、進めるほうがよい」が41.3%で最も多く、次いで「積極的に進めるべきである」が25.1%、以下「多少の手間や不便さを感じるが、社会の流れとして、進めることはやむを得ない」が19.0%となっており、全体の8割の人が循環型社会づくりに肯定的な考え方を示している。
- ごみを少なくするために大切だと思うこと（問（２））では、「不要なレジ袋を購入せず、買い物袋を持参したり、余分な包装を断るようになっている」のリフューズの考え方が27.6%で最も多く、次いで「食料品や日用雑貨などで詰め替え用製品を積極的に利用し、使い捨て用品をなるべく使わないようにしたり、食料品の買いすぎ、作りすぎをせず、残り物も上手に使い切る」が24.3%になっている。
- 平成27年度調査と比較して、「ごみを分別して資源や店頭回収、集団回収」などのリサイクルから「ごみになるものを断る：リフューズ」、「（ごみを発生させない：リデュース）」への関心が高くなっていることを示している。
- ごみを少なくすることについて心がけていること（問（３））では、「買い物袋を持参したり（レジ袋を購入しない）、余分な包装を断るようになっている」が74.6%でも最も多く、次いで「詰め替え製品をよく使うようになっている」が55.2%となっている。

- 2020年7月1日のレジ袋全面有料化以降の商品を購入する際の変化（問（４））では、「有料化前からレジ袋をもらわないよう意識していたため、有料化後もほぼ変わらずレジ袋を購入していない」が44.5%で最も多く、次いで「ほとんど購入しなくなった」が33.3%、以下、「必要に応じて購入するようになった」が14.9%となっており、全体の９割の人がレジ袋の使用を控えていることを示している。
- プラスチックが使用されている商品・サービスの過剰への考え（問（５））では、「コンビニ等のレジで、店員がフォーク・スプーンを、商品購入者に必要かどうか確認せず入れる」が35.8%で最も多く、次いで「ネットで購入した商品の梱包材」が35.7%となっている。
- プラスチックごみ削減について地域で積極的に取り組んでほしい考え（問（６））では、「スーパーの生鮮食品の白色トレイ（プラスチック）を紙製にするなど、プラスチックの使用を減らした商品の普及」が39.0%で最も多く、次いで「バイオマスプラスチックや生分解性プラスチックなど、環境に配慮した素材であることを商品等に明示」が33.1%となっており、脱プラスチック商品の普及及びその商品を消費者が容易に選べる取り組みに期待されていることを示している。
- 食品ロス問題（問（７））については、「知っている」が81.0%（「よく知っている」26.3%+「ある程度知っている」54.7%）となっており、令和２年１月に実施された消費者庁の全国値（80.2%）と同程度となっている。
- 食品ロスを減らす取り組み（問（８））では、「残さずに食べる」が65.8%で最も多く、以下、「冷凍保存を活用する」が45.3%、「賞味期限を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が44.2%、「料理を作り過ぎない」が41.8%となっている。
食品ロス問題の認知度（問（７））と食品ロスを減らす取り組み（問（８））との関係を集計したところ、食品ロス問題を「知っている」と回答し、「食ロスを減らすために取り組んでいる」と回答した割合は78.3となっている。
- フードバンク活動（問（９））については、「知っている」が40.9%（「よく知っている」6.6%+「ある程度知っている」34.3%）となっており、令和２年１月に実施された消費者庁の全国値（44.7%）と同程度となっている。
食品ロス問題の認知度（問（７））とフードバンクの認知度（問（９））との関係を集計したところ、食品ロス問題を「知っている」と回答した人では、フードバンク活動を「知っている」と回答した割合が48.4%（「よく知っている」7.8%+「ある程度知っている」40.6%）となっている。
一方、食品ロス問題を「知らない」と回答した人では、フードバンク活動を「知っている」と回答した割合が8.9%（「よく知っている」1.3%+「ある程度知っている」7.6%）となっている。
- 新型コロナウイルスの影響によるごみに関する意識・行動（問（10））については、何等かの「変化や気づいたことがあった」人が57.3%（100-「特に変わったことや気づいた点はない」が42.7%）となっている。
変化については、「あなたや御家族の在宅時間が長くなったことで、ごみの量が増えた（又は、増えた気がする）」が24.6%で最も多く、次いで「家庭での調理が増え、生ごみの量が増えた（又は、増えた気がする）」が18.7%となっている。

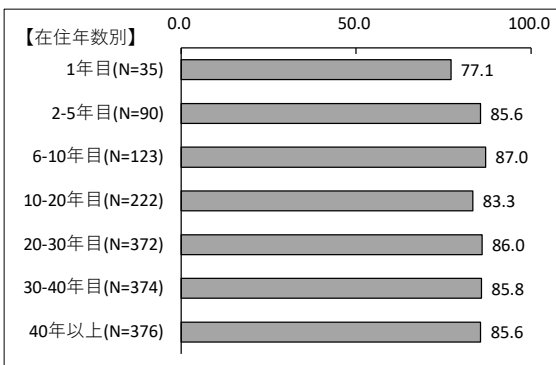
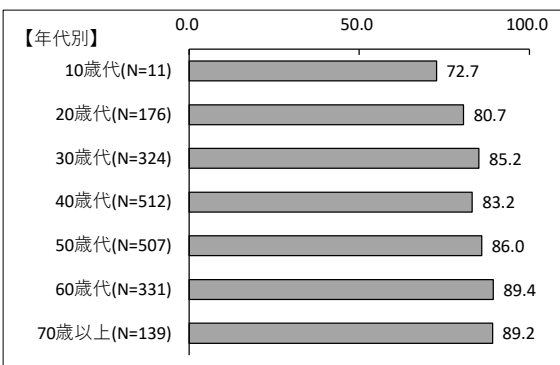
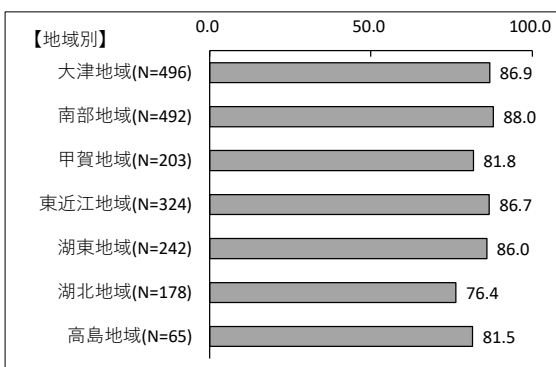
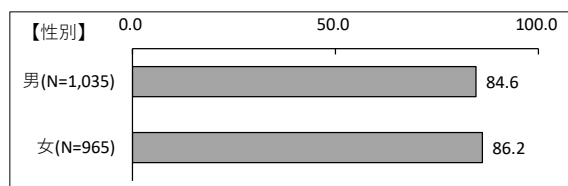
6. 調査結果

(1) 循環型社会を進めていくことについて、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

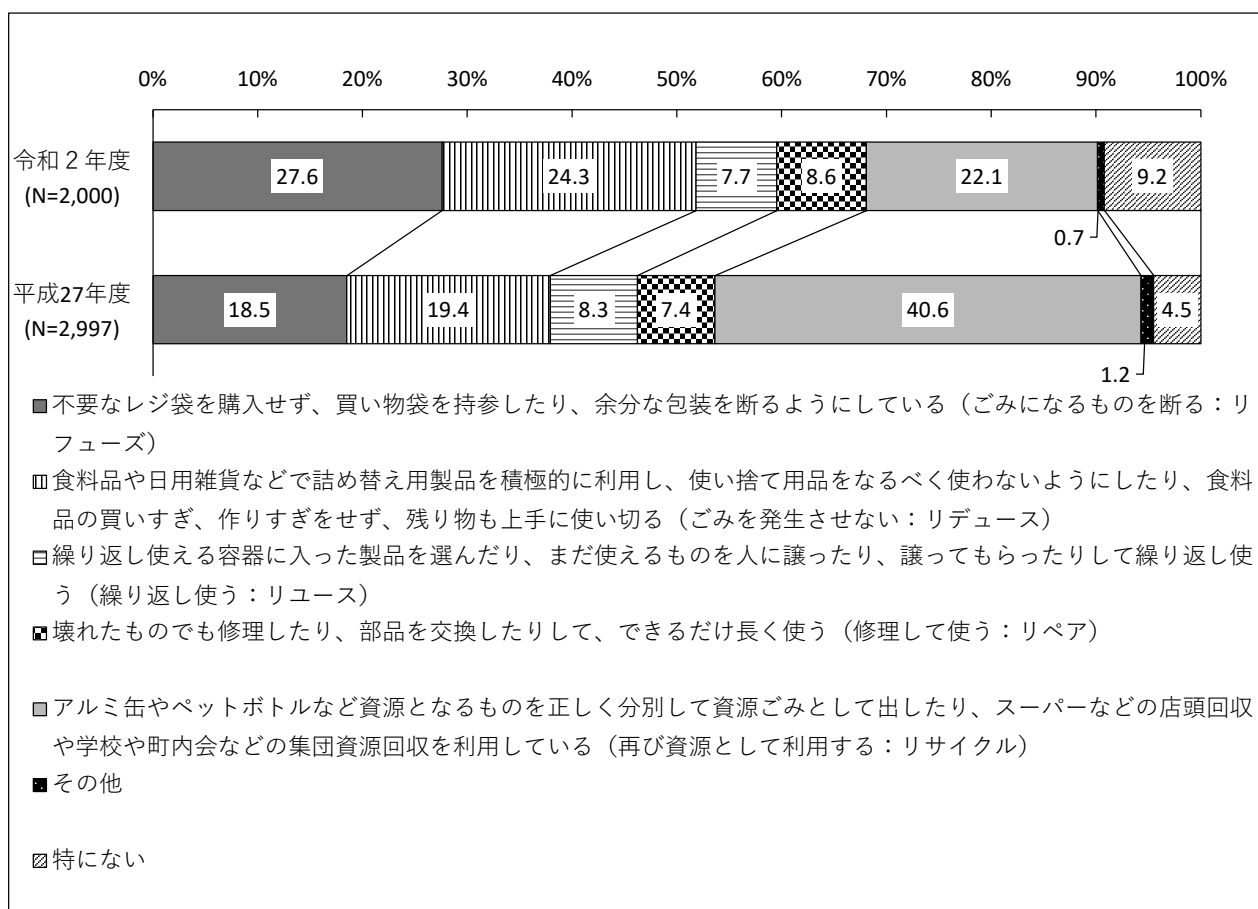


平成27年度：「第48回滋賀県政世論調査（滋賀県）」（以下、同様）

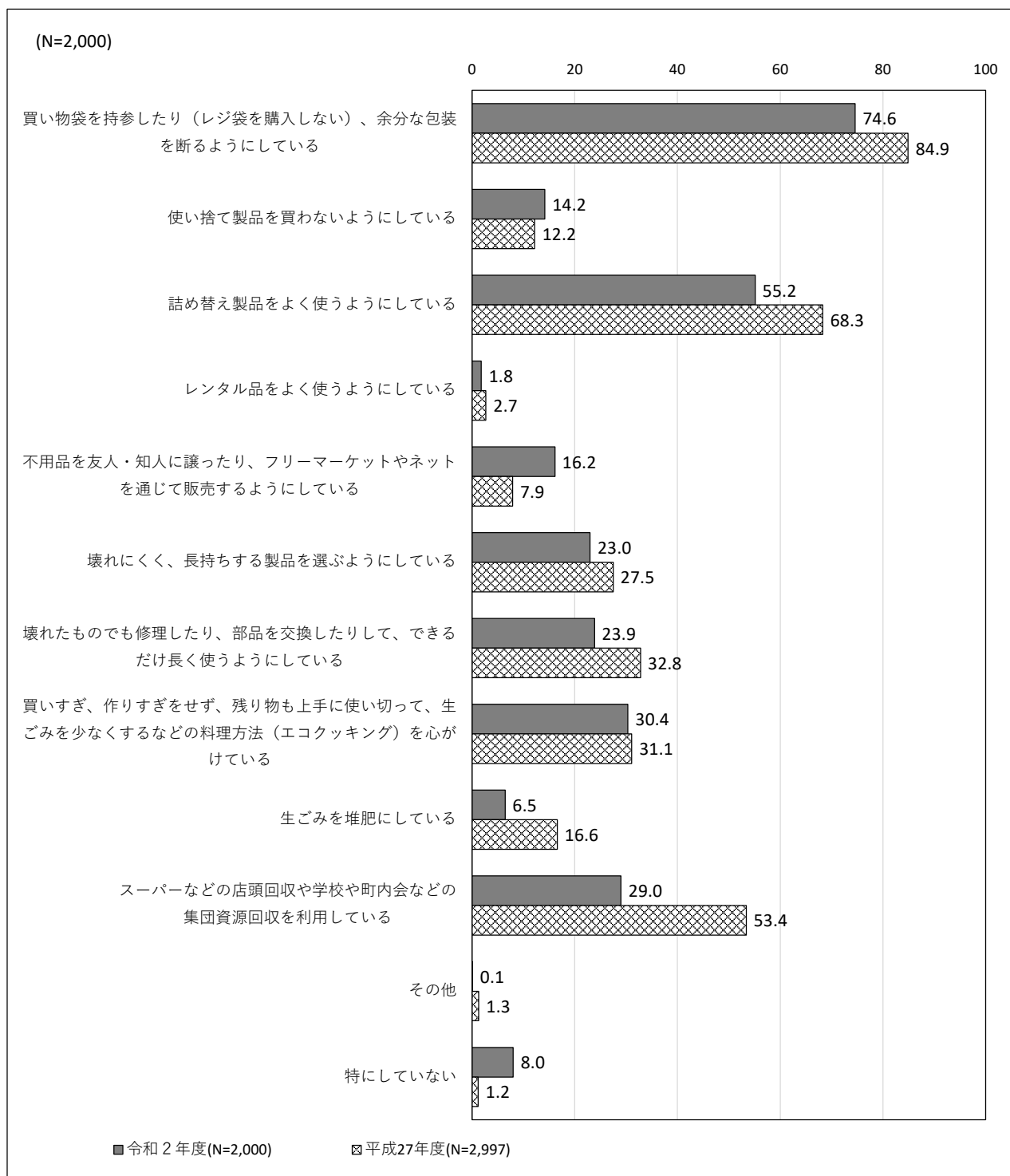
■ 循環型社会を「進めるべきである、進める方がよい、進めることはやむを得ない」と回答した人の属性別の回答率



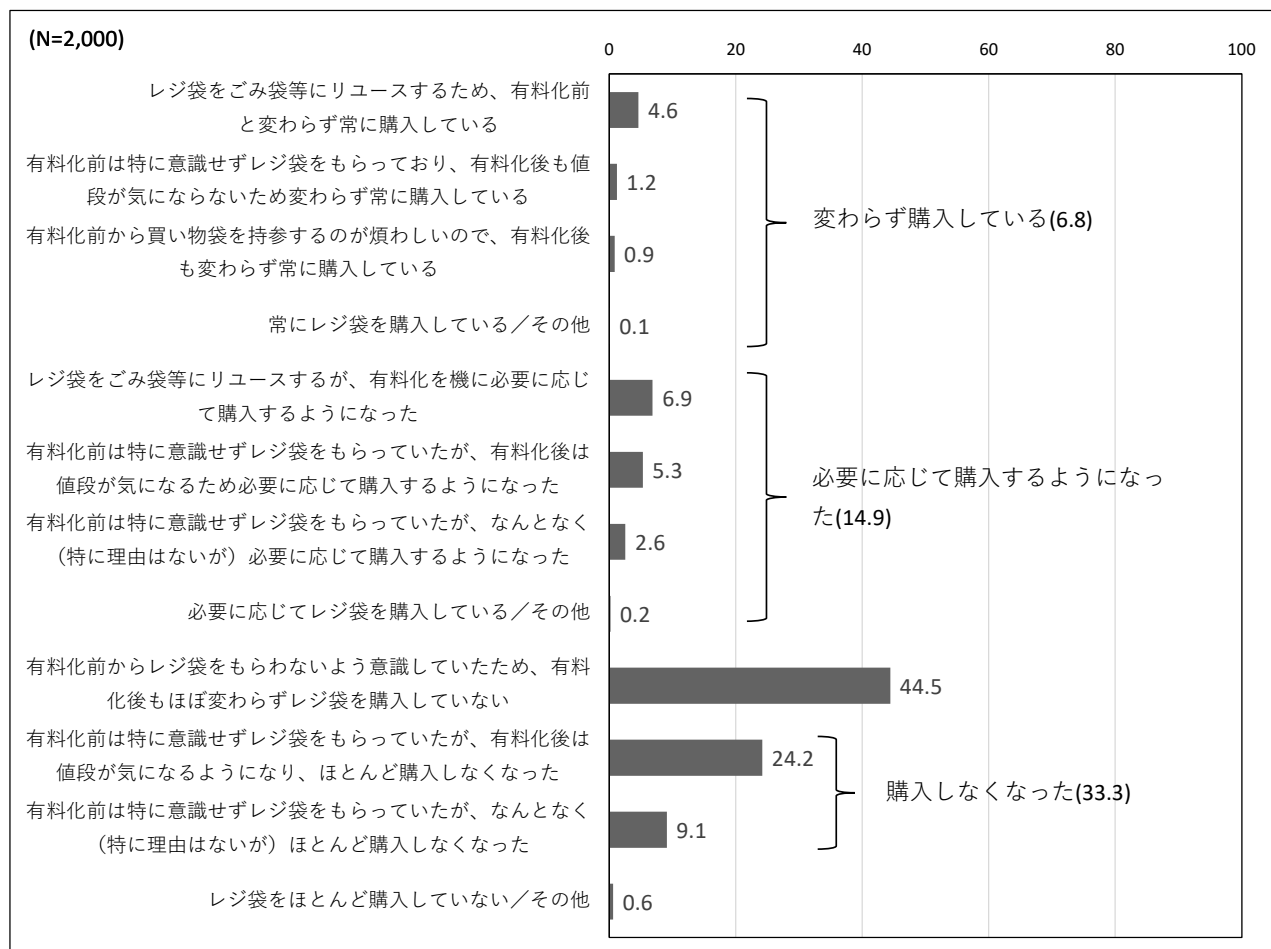
(2) あなたがごみを少なくするために最も大切だと思うことは何ですか。1つだけ選んでください。



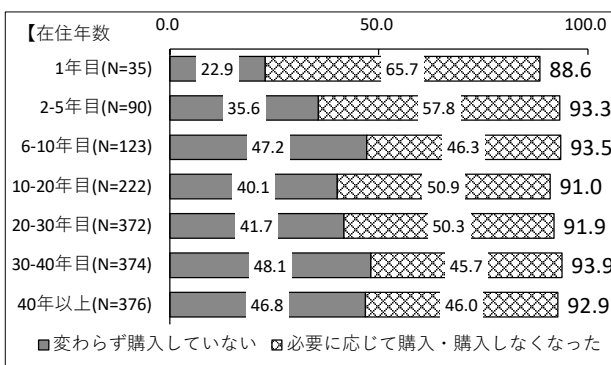
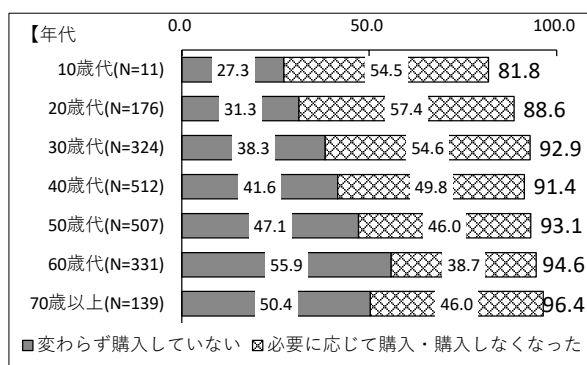
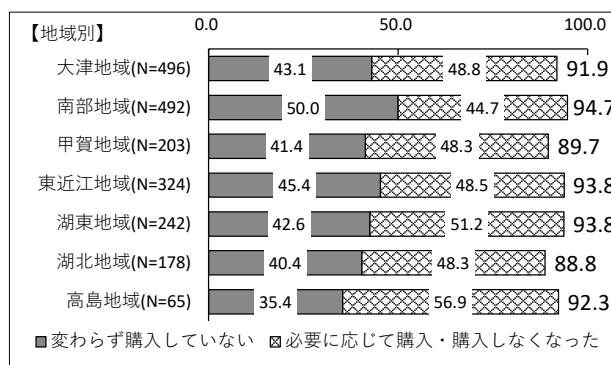
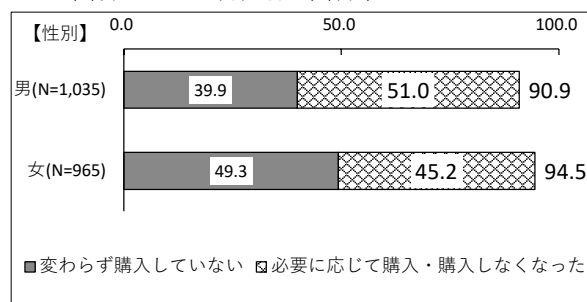
(3) あなたが日頃の暮らしの中で、ごみを少なくするために心がけていることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



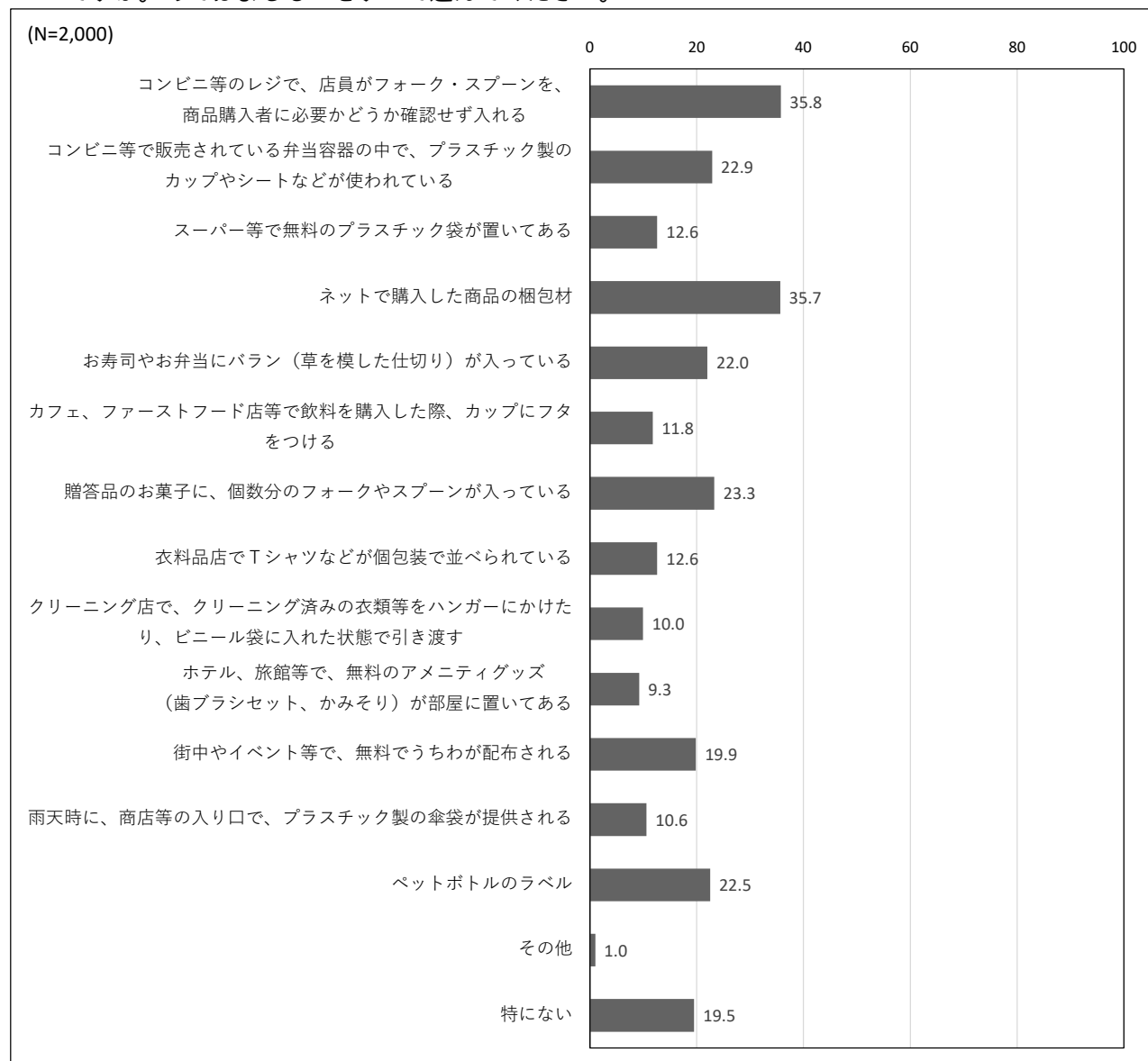
(4) 2020年7月1日のレジ袋全面有料化のスタートから現在まで、あなたが商品を購入する際にレジ袋を購入しているかどうかとその理由について、最も近いものを1つだけ選んでください。



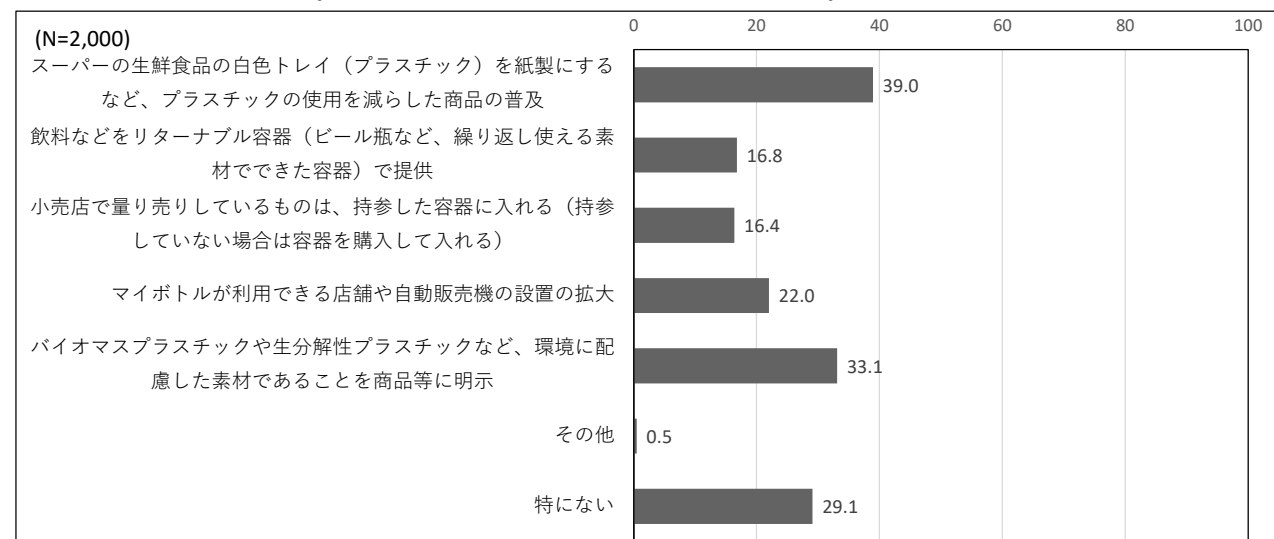
■ 商品を購入する際に「変わらず購入していない、購入しなくなった・必要に応じて購入するようになった」と回答した人の属性別の回答率



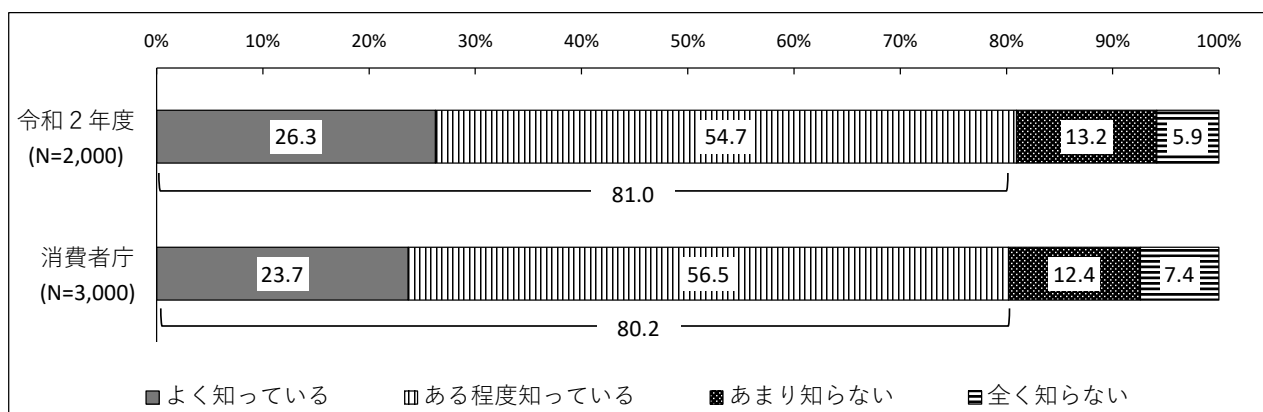
(5) プラスチックが使用されている商品・サービスについて、あなたが「過剰である」と思うものはなんですか。あてはまるものをすべて選んでください。



(6) プラスチックごみの削減に関する取組について、あなたの住む地域で積極的に取り組んでほしいと思うことはなんですか。あてはまるものをすべて選んでください。

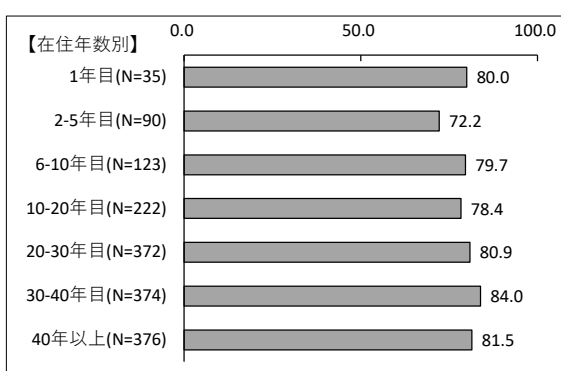
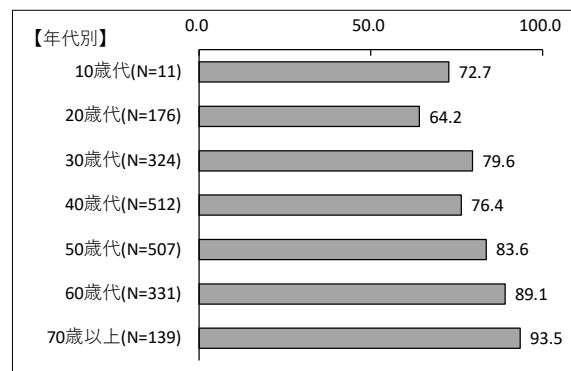
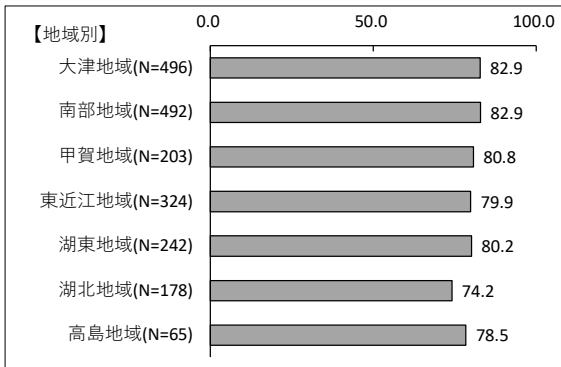
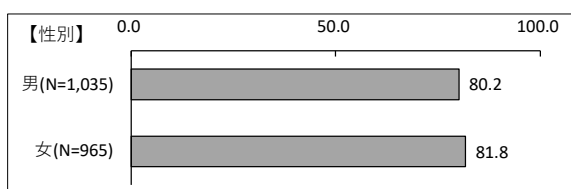


(7) あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていましたか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

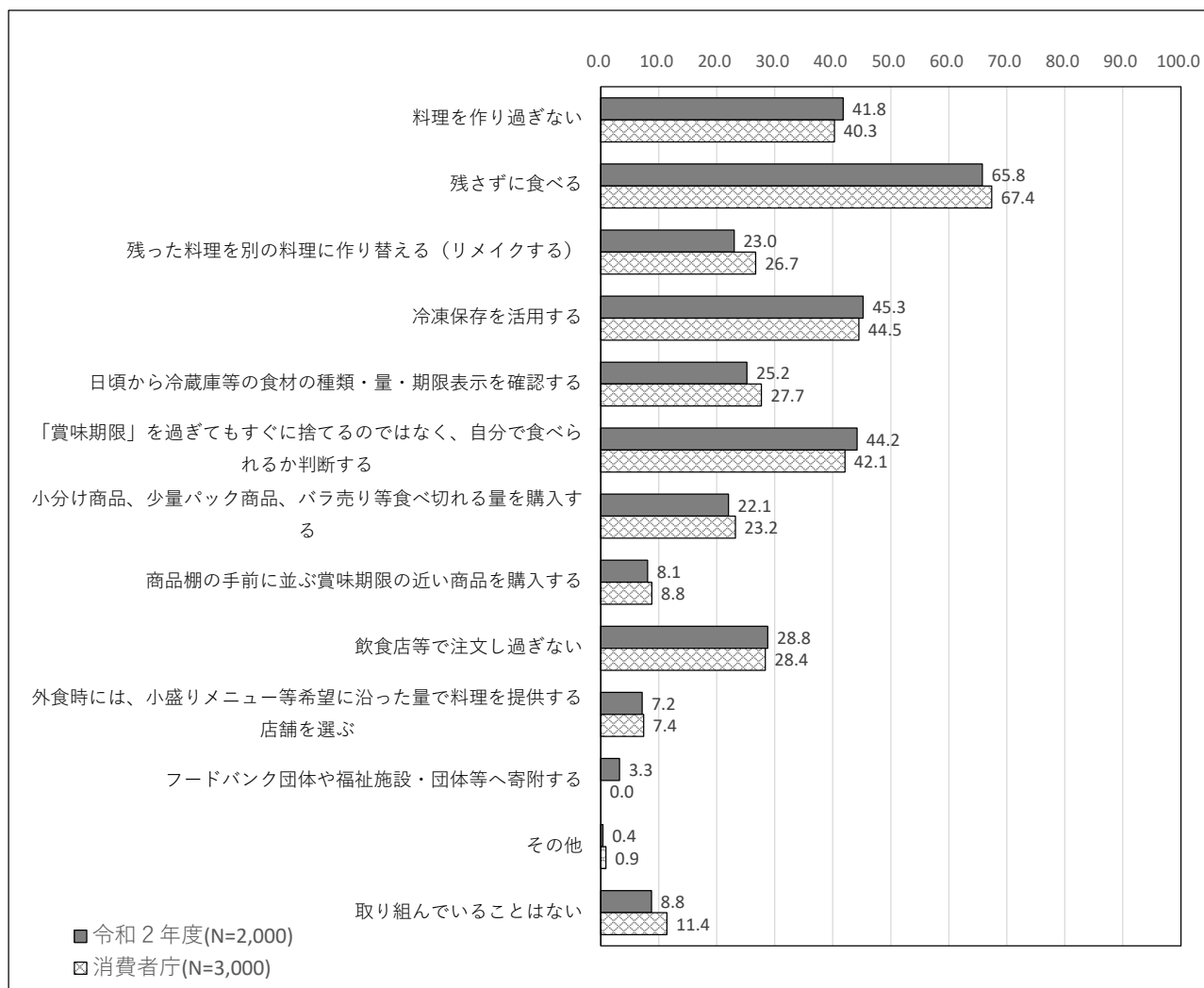


消費者庁：「令和元年度 消費者の意識に関する調査結果報告書 -食品ロスの認知度と取組状況等に関する調査- 消費者庁 令和2年1月調査実施」(以下、同様)

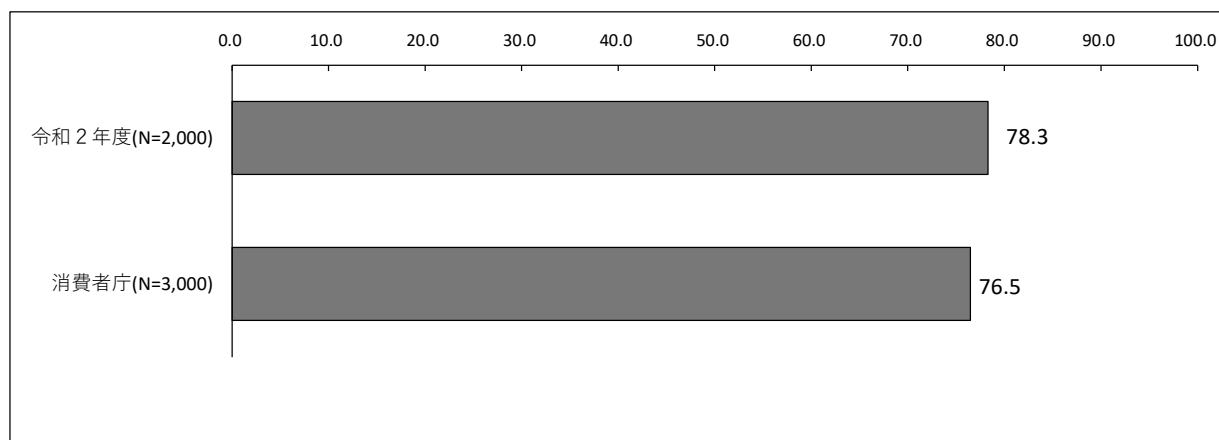
■ 食品ロスが問題となっていることを「知っている、ある程度知っている」と回答した人の属性別の回答率



(8) あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

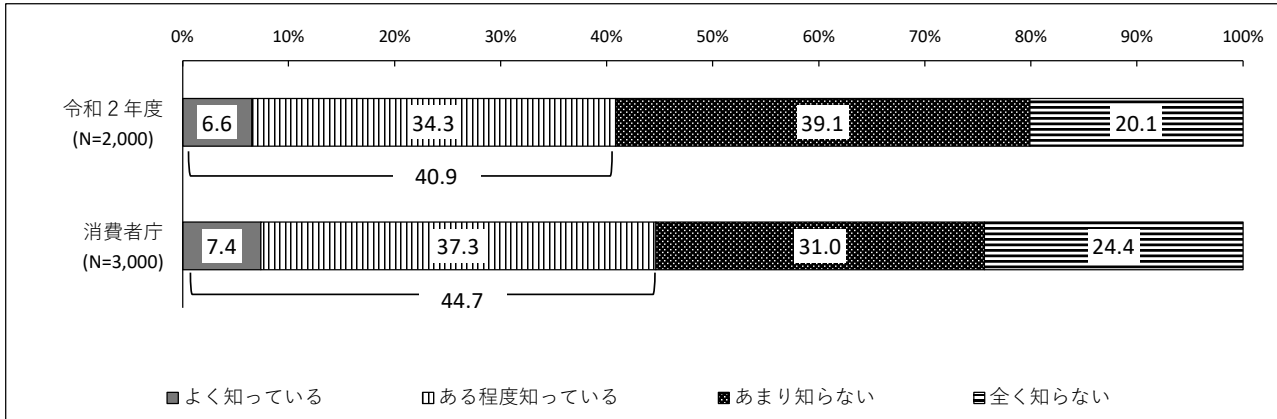


■ 食品ロス問題を「知っている、ある程度知っている」と回答し、食品ロス削減のために行動している人の全回答者数に対する割合*

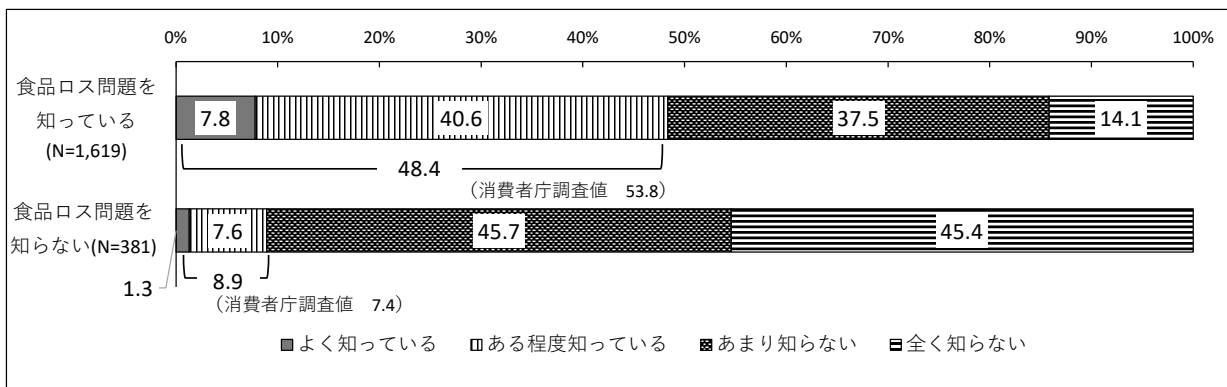


* 『食品ロス問題を「知っている、ある程度知っている」と回答し、食品ロス削減のために行動している人』 / 『(N)標本数』

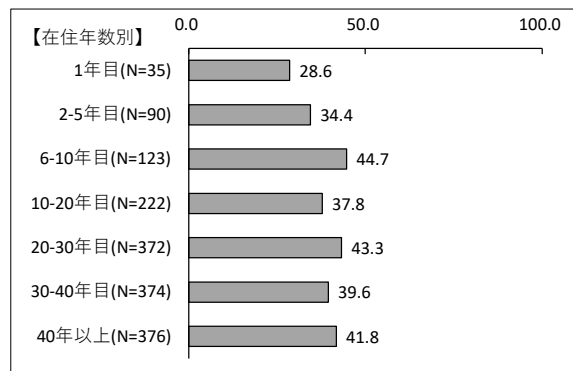
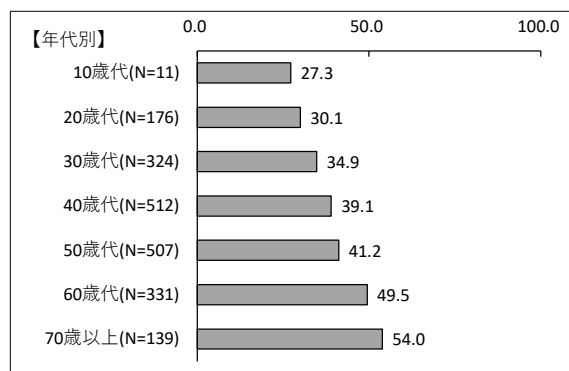
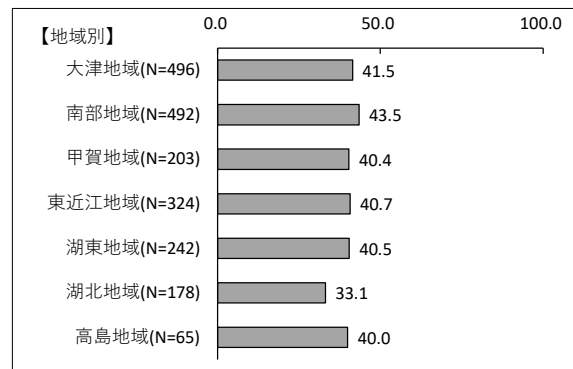
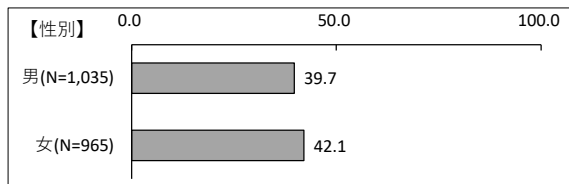
(9) あなたは、フードバンク活動を知っていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。



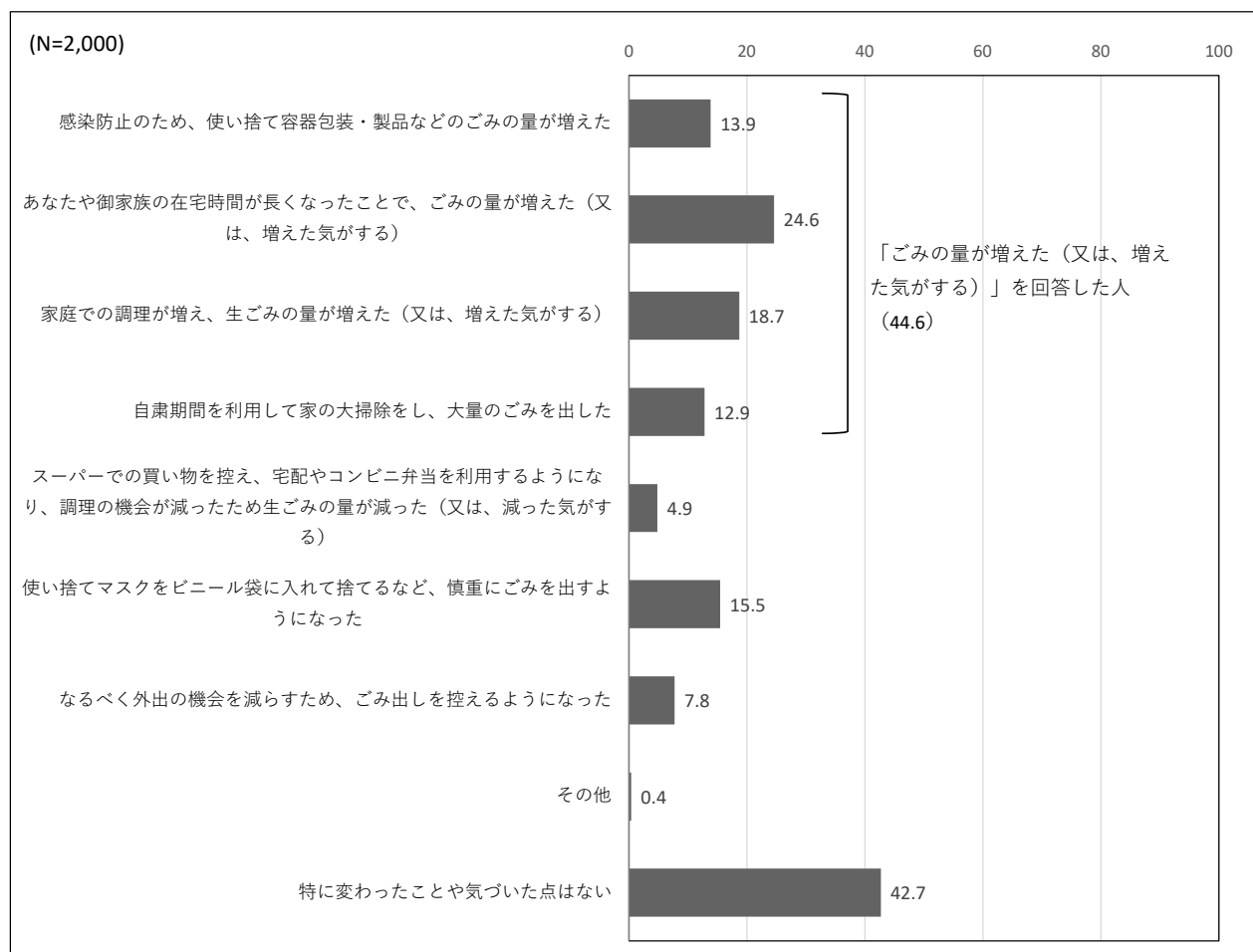
■ 食品ロス問題を「知っている、ある程度知っている」と回答した人のフードバンクの認知の回答率



■ フードバンク活動を「知っている、ある程度知っている」と回答した人の属性別の回答率



(10) 新型コロナウイルスの影響により、あなたのごみに関する意識・行動に変化があったと思うこと又は気づいた点について、あてはまるものをすべて選んでください。



■ 新型コロナウイルスの影響により、ごみに関する意識・行動の変化の有無別・属性別の回答率

